

ヤクシカWG委員による現地視察の状況（結果）

1 視察日 平成23年8月28日(日)～同29日(月)

2 視察場所

1日目：西部林道沿線地域→ヤクシカ被害状況、植生保護柵、土砂流出、
南部地域→ヤクシカの被害の少ない箇所、
安房林道沿線→植生保護柵(6年の経年変化と効果等)

2日目：長峰町営牧場→牧場一帯におけるシカ対策等
愛子岳→植生の状況、植生モニタリング調査の200mプロット箇
所の被害状況
宮之浦林道沿線→署のくくり罠の取組み

3 視察等の状況

(1) 西部林道沿線地域

標高200m程度の林内の状況



垂直保護柵(署22年度設置箇所)
下層植生がほとんど見られない、あるのは
不嗜好種のみで多様性も変質



柵外の植生調査対象区
嗜好性植物は皆無、不嗜好種のクワズ
イモ等が生育

土砂流出の状況
(路側部への堆積状況)



過採食による下層木・落葉(リタ-)の減少・消失に、
傾斜地でのシカによる表層土の過度な攪乱もか
わり、降雨により表層土壌が林道まで流出

標高 1 2 0 m 程度の川原地区の林内の状況



平成 2 1 年 3 月 設置 (屋久島生物多様性保全協議会)
植生保護柵設置個所の周囲環境

同左

H21種数16種 → H23春50種、3倍増
植被率も2倍に回復



植生保護柵下側に外来種のアブラギリ
が群生(樹高 7 m 程度、成長が早い)



樹皮剥ぎ被害が幹の全周に亘り
上層木枯死の危機
(ヒメユズリハ)



被害状況等の検討状況

(2) 南部地域

平内地域(被害の少ない地域)



照葉樹林内は、下層植生が茂り一見
採食被害は確認できない程度
(林床の欄類に僅かな食害痕)

安房林道沿線



検討箇所道路下側の法面植生の状況
嗜好種のカラスザンショウなどが生育し
採食被害は軽微



H17年度設置箇所の植生保護柵
(矢原氏外)

設置当時は採食被害が確認されていたが、
6年経過した現在、リュウビンタイ、
ヒロハノコギリシダその他多種の固有種
のシダ類が繁茂し、植生の回復状況が柵
内外で明瞭に確認できる

(3) 北東部地域

長峰町営牧場



現地での検討状況



牧柵未設置箇所(整備計画地：町)

標高約 200 m 程度の林内の状況



愛子岳の麓(登山口)における検討状況



植生モニタリング 200 m プロット箇所での被害状況と意見交換

宮浦林道沿線



署からくくり罠による捕獲の取組状況を説明



くくり罠の設置状況
スギ立木に餌のカラスザンショウを吊るしてヤクシカを誘引し中央部に罠をセット



熱心な意見交換等の様子

(4) 室内での検討・意見交換



鹿児島県から特定鳥獣(ヤクシカ)保護管理計画に関する検討状況等の説明を受け、ヤクシカWG委員と意見交換



高標高地(奥山)における捕獲手法等についてヤクシカWG委員、関係機関との意見交換